

基町地区の将来を見据えたまちづくりと サッカースタジアムについて

■ はじめに

- ◎ 今年2月に、皆様から「サッカースタジアム建設候補地から中央公園案を外すことを求める要望書」をいただきました。
- ◎ その際、皆様のご要望の根底には、「基町の将来がどうなるのかということが第一の課題である」ということがあると受け止めました。
- ◎ このため、「基町地区の将来を見据えたまちづくり」について、その方向性や市として取り組むべき方策を説明した上で、サッカースタジアムの検討状況について説明します。

■ 基町地区の将来を見据えたまちづくり

基本的な考え方

- ◎ 基町地区は、広島戦後の復興を支える大きな役割を果たしてきました。
- ◎ しかし、建設後、約40年の歳月を経て、高齢化が進むなど地区を取り巻く環境は様変わりし、様々な課題が表面化しています。
- ◎ このため、基町地区の位置付けを「広島戦後の復興を支えてきた街」から「広島更なる発展を牽引する街」へと大きく転換していくことを改めて明確化した上で、市営住宅の管理運営については、これまでの枠組みに捉われることなく、特別な施策を新たに展開していく必要があると考えています。
- ◎ 基町地区のまちづくりについては、引き続き広島市が責任を持って取り組みます。

当面の課題への取組

① 建物の老朽化への対応

- ◎ 高層棟のリニューアルを平成34年度に完了する予定です。
- ◎ 建替えを予定している17号棟は、今後、建設場所を含めて検討し、着実に取り組んでいきます。

② 高齢化への対応

- ◎ 年内に、基町ショッピングセンター内にデイサービスセンターをオープンする予定です。

③ 若い方の入居促進

- ◎ 地域活動の担い手となる若年世帯や学生などが特例的に入居（55世帯を目標）できるよう、さらに取組を進めます。
- ◎ 放課後学習に大学生を教育参画させるなど、小・中学校の子供たちの学習支援を一層充実していきます。

④ にぎわい再生への取組

- ◎ 若者が中心となった広島市立大学との連携による文化芸術活動や地域交流などを「基町プロジェクト」として推進しています。
- ◎ 基町ショッピングセンターの店舗の有効な活用策について、住民の皆さんの意見を取り入れながら、検討を進めます。

⑤ 県営住宅跡地の活用

- ◎ 長期的な観点に立った活用策がまとまるまでの間、当面の対応として、オープンスペース（開放広場）として活用します。

中長期的なまちづくりへの取組

- ◎ これからの基町地区の姿として、「多様な世代が共存する、住みやすく、にぎわいのあるまち」を目指します。
- ◎ 市営住宅の管理運営について、これまでの枠組みに捉われない入居条件の弾力化をするなど特別な取組を検討し、若い方や若い世帯がより入居しやすくなるようにします。
- ◎ 基町小学校では、児童一人ひとりの習熟度に応じた丁寧な教育が行える体制を整えていきます。
- ◎ 基町地区に必要な戸数の市営住宅を確保するとともに、住民のための利便施設として、例えば、宿泊型の福祉・介護施設等の整備を推進していきます。
- ◎ 県営住宅跡地を活用して、旧広島市民球場跡地から一体的につながる広大な緑の空間をかたち作る大きなオープンスペース・広場を確保するとともに、市営住宅や各種公共施設の再配置を含めた整備を進めていくことで、住民の潤いのある生活や、防災拠点としての機能を確保していきます。

基町住宅地区活性化計画の改定

- ◎ 「当面の課題への取組」や「中長期的なまちづくりへの取組」は、基町住宅地区活性化計画の延長線上にあるものであり、来年度、計画を改定し、地区の皆様の御意見を伺いながら、位置付けていきます。

■ サッカースタジアムの検討状況

広島にサッカースタジアムが必要な理由

- ◎ 地元のプロスポーツチームの活躍は、多くの県民・市民の皆さんに夢と感動を届けてくれます。また、その広域的な集客は、まちのにぎわいづくりにつながります。
- ◎ サッカースタジアムは、広島の新たなシンボルとして、広島市ひいては広島県全体の活性化につながり、マツダスタジアムと同様、にぎわいのある都市づくりの起爆剤として期待できることから、整備に向けて検討を進めています。

「中央公園広場」が建設候補地になった理由

- ◎ 平成26年12月に、サッカースタジアム検討協議会において、「旧市民球場跡地」と「広島みなと公園」の2つを候補地とする提言がとりまとめられ、この提言を基に検討してきましたが、それぞれ課題があり、検討を深めることが難しくなりました。
- ◎ 「旧市民球場跡地」は、景観保護のための高さ制限を守るため建設費が割高になる、敷地が狭く観客の溜まる空間が確保できないなどの課題があります。
- ◎ 「広島みなと公園」は、観客を運ぶ公共交通機関の能力が充分でなく、自動車での来場が多くなるため、宇品地区を中心とした物流への影響を抑える必要があるなどの課題があります。
- ◎ そこで、県民・市民のために新しいスタジアムを建設するという観点に立って検討を深めるため、県・市・商工会議所にサンフレッチェ広島を含めた4者で話し合いを行った結果、市営住宅に近接し、生活環境への配慮に課題があるものの、検討協議会で最終段階まで候補地とされていた「中央公園広場」を候補地として追加した上で、最終的な判断をすることとしました。

エディオンスタジアムが建設候補地から外れた理由

- ◎ 現在のサンフレッチェ広島ホームスタジアムはエディオンスタジアムですが、同スタジアムは、観客席全面に屋根掛けを行っていないことなどがＪリーグの定める施設基準を満たしていません。
- ◎ 同スタジアムで継続的にＪリーグの試合を開催するためには、観客席全面に屋根掛け等を行う必要がありますが、それにはスタジアムを新設するのと同程度の改修費が見込まれます。
- ◎ 仮に同スタジアムを改修したとしても、陸上トラックが残り、サッカー専用スタジアムとはならないことや、将来的なアストラムラインの延伸を考慮しても短時間で観客を運ぶことが難しいことなどの課題があります。
- ◎ こうした課題があることから、サッカースタジアム検討協議会の過程において、建設候補地から除外されました。
- ◎ なお、現状においても、同スタジアムにおいて一定規模以上の観客動員数がある場合、帰宅時はバスを１時間以上待つこともあるなど、交通面で大きな課題があります。

今後の進め方

- ◎ 各建設候補地の比較検討や、本日の説明会での議論を踏まえながら、県・市・商工会議所でさらに検討し、候補地の絞り込みを行っていきます。